

ふじみさらだボール子育て情報



「発達とモノ」
令和2年7月15日号
板橋富士見幼稚園



小さな遊びから大きな遊びへ

子どもは、生後3か月を過ぎるころから、手に握る軽いおもちゃで遊び始めます。8か月から1歳で、指遣いができるようになってくると、両手で「持つ」「運ぶ」などの動作が容易くできるようになってきます。発達が進むにつれ、手で握る動作から、摘まんだり、クレヨンを持って絵を描いたり、指で操作できるものへと遊びも広がっていきます。この時期からは、遊び道具を「しまう」「片付ける」といった躰をはじめの良いチャンスが到来します。

2歳から3歳、このころは、成型されている遊びで扱う道具は容易く扱うことができますが、布のような衣服を扱うには習熟する必要があります。

さらに衣服を形よくたたんだり、たたんだものを決まった場所にしまうなどは、3歳から4歳にならないとうまく操作することは難しいようです。



さて、扱う道具が少し大きくなると、腕の筋力も強くなり、でんぐり返しや、モノに「ぶら下がる」といった動作もできるようになってきます。

当然、両手で抱える身体幅のモノは、一人で運ぶことができるようになっていたり、積み上げることができるようになっていたりしてきます。そして、持ちきれない大きさのものは、2人や3人で協力しながら運んだり、組み立てたりして、次第に大きな遊びに発展し、継続したり協働したりしていきながら、さらにダイナミックな遊びを好むようになっていきます。

小さく軽いおもちゃから、徐々に大きな重さのあるおもちゃを扱いながら、同年齢の子どもと出会い、遊びが進めていけるようになっていきます。

そして、何よりも経験として大切なことは、動作や行為を通して、「加減」を体が学んでいくことです。この加減は、実体験からしか学ぶことができないため、精神的な「思いやる気持ち」や「繊細さ」等は、遊びの体験を繰り返すことで身につけていきます。そして一人遊びからグループでの遊びへと発展し、やがて有能で知的な精神を培い、大成していきます。

子どもの今の発達をしっかりと見極め、今は、「ここまでしかできないのだ」としっかりと理解し、付き合っていくことが大切です。